

子どものグリーフプログラム
新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン

防衛医科大学校 医学教育部
教授 高橋聡美

はじめに

新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）に関して、2月25日に政府が「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」を発表しました。これに伴い、学校の休校、各イベントの自粛など、子どもの生活にも影響が出ています。

本ガイドラインはグリーフプログラムを利用する子どもと子どものグリーフプログラムを開催するにあたっての指針です。

現在、世界中で COVID-19 が流行し、3月23日現在で16000人以上の方が亡くなっています。子どもたちに安全な場を提供することはもちろん、COVID-19 の流行を食い止め、新たなグリーフを生み出さないことを願っています。

2020年3月24日

防衛医科大学校 医学教育部

教授 高橋聡美

1. COVID-19 感染予防の基本・・・・・・・・・・P3
 - 1) 感染経路
 - 2) 感染予防
2. 子どもグリーフプログラム開催の判断基準・・P4
3. プログラム開催時の注意事項・・・・・・・・・・P5
 - 1) 参加者・FT の参加基準
 - 2) 参加者・FT への注意喚起
 - 3) プログラム運営上の留意点
4. 資料

1. COVID-19 感染予防の基本

新型コロナウイルス感染症は現在のところ治療がありません。高齢者が重症化しており、現段階では若年者層の重症・死亡例はあまりありませんが、ヒトからヒトへ感染が確認されていますので、プログラムでのクラスター（集団感染）対策は必須となります。

1) 感染経路

感染経路は接触感染と飛沫感染とされています。

接触感染はウイルスの付着したものを触り、その指で口や鼻などを触った時に体内に侵入してくるものです。

飛沫感染は、くしゃみや咳などでウイルスが飛び感染するものです。大きな声を出したり、荒い呼吸でもウイルスが飛ぶことが確認されています。

空気感染はしないですが、飛沫によって一定時間、霧のように空気中に漂う「エアロゾル」の状態ウイルスが存在することも指摘されています。

2) 感染予防

①ウイルスを持ち込まない

プログラムの参加基準を設けて、リスクのある人は参加しないようにしましょう。

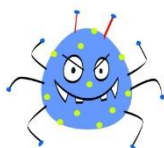
プログラム参加の際も入口で必ず手指消毒をし、「ウイルスを持ち込まないように徹底しましょう。」

②ウイルスを排除する

手で触れる場所はのちに示す方法で消毒して、ウイルスを除去してください。

エアロゾルを防止するために、密閉された空間は換気をまめに行いましょう。

一般的に、近距離で話をしないなどが推奨されていますが、遊んでいる子どもにそれを要求するのは現実的ではありません。本ガイドラインに示す対策を取ったうえで、普段通りにプログラムを運営してください。



2. グリーフプログラム開催の判断基準

グリーフプログラムの開催基準

	感染の状況	運営の基準
レベル0	感染症が鎮静化されており社会が通常通り	通常のプログラム
レベル1	感染症が確認されているが学校は通常通り	本ガイドラインに従い運営
レベル2	プログラム開催地域で学校が休校になっている	プログラムは行わない
レベル3	プログラムの開催地域でイベント自粛要請が出ている	プログラムは行わない
レベル4	プログラム開催地域で外出自粛要請がでて	プログラムは行わない

作成：高橋聡美

グリーフプログラム自体は「必ず行わなければならないもの」ではないので、
「不要不急」のイベントと理解してください。



3. プログラム開催時の注意事項

1) 参加者・FT の参加基準

参加基準
以下の全ての基準を満たすこと ①発熱（37.5℃）や呼吸器症状がないこと ②家族に発熱（37.5℃）や呼吸器症状のある人がいないこと ③過去 1 か月以内に海外渡航歴がないこと ④COVID-19 陽性者の濃厚接触者ではないこと ⑤外出自粛要請の出ている地域に在住していないこと 以上の基準を必ず満たした人は参加できます。 プログラム会場にいらした時に、明らかに咳がひどい方は帰ってもらえる場合もあります。

2) 参加者・FT への注意喚起

①参加する日の朝必ず検温をしてもらう。

37.5℃以上の発熱時は参加しないように伝えてください。

発熱がなくても咳やくしゃみなどの呼吸器症状がある場合も参加しないように伝えてください。

②プログラム会場に入る際、入り口で設置してあるアルコール手指消毒をしてもらってください。アルコール消毒がない場合は石鹸での手洗いを促してください。（資料1）

③マスクは必要ありません。必要と思われる方は各自でご持参くださるよう連絡しておいてください。

マスクの必要性については様々な議論がありますが、本ガイドラインでは「必ずしも必要ではない」という方針です。理由は以下の2つです。

1) マスクの入手が困難で、マスク着用を参加条件とすることで参加できない子どもが出る可能性がある

2) 遊びながら子どもがマスクを正しく着用することは難しく、「マスクを触る」「マスクで遊ぶ」など、マスクを介した感染リスクがむしろ高まる可能性がある

資料2 に示すようなご案内を申し込み時に提示しておくといよいでしょう。



3) プログラム運営上の留意点

ここでの留意点はレベル1でプログラムを開催する時のものです。

レベル0の場合は通常通りのプログラムで大丈夫です。

プログラム準備

①会場で子どもたちが「手」で触れるものは、薄めた市販の家庭用塩素系漂白剤で拭いた後、水拭きしてください。

家庭用塩素系漂白剤は、主成分が次亜塩素酸ナトリウムであることを確認し、濃度が0.05%（製品の濃度が6%の場合、水3Lに液を25ml）になるように調整してください。トイレや洗面所は、通常の家庭用洗剤ですすぎ、家庭用消毒剤で消毒してください。

ドアノブ

エレベーターのボタン

椅子

テーブル

おもちゃ

手すり

水道の蛇口

トイレのボタン

そのほか子どもが手に触れるところ

*全部やる必要はありません。「手に触れるところ」を消毒してください。

②子どもたちが来場する前に十分な換気をしてください。

COVID-19は飛沫感染と接触感染が主な感染経路で、空気感染はしないとされていますが、ウィルスが一定時間空气中に浮遊することも確認されています。ウィルスは非常に小さいものなので風通しを良くすれば、その風に乗って外に出ていきます。

プログラム前に換気をして空気を入れ替えておいてください。

③参加基準の確認

参加基準を示し、要件を満たしているか参加者とFTに必ず確認をしてください。

咳がひどい場合は条件を満たしていないことを説明し、受付時に帰ってもらってください。資料2

④入口にアルコール手指消毒を置き、参加者にもFTにも手指消毒してもらってから会場に入ってもらってください。

プログラム中

①COVID-19について子どもたちと気持ちを分かち合う

はじまりの輪の際に、COVID-19に関して触れ、不安がないか確認してください。

死別を体験した子どもたちにとって、毎日報道されるCOVID-19による死亡のニュースは死別体験を想起させます。丁寧に触れるようにしてください。

COVID-19に関する偏見を助長しないように注意してください。

FT自身もCOVID-19に関して茶化したり、ヘイトスピーチをしないように気を付けましょう。

②プログラム中の観察

プログラム中に咳やくしゃみをする子がいたら、咳エチケットを徹底させてください。

上着や袖やハンカチ、ティッシュなどで口と鼻を覆い、ティッシュはすぐにごみ箱に捨ててください。手で覆ってしてしまった場合は、すぐに手を洗うように指導してください。

③手洗いと換気

くしゃみや咳をした時に手で覆ってしまったら石鹸での手洗いを促してください。

ウイルスは鼻や口などから体に侵入してきます。おやつ時間の前は必ず手洗いをするようにしてください。

また、プログラム中は30分に1回、換気をしてください。閉鎖された空間で大声を出したり激しい呼吸をすることで、エアロゾルが発生します。激しい運動をするような密閉スペースでは、特に換気をまめに行ってください。

④ばい菌ごっこ

遊んでいる時にばい菌ごっこをしたり、COVID-19関連で体験したことを再演するごっこあそびをすることがあります。

ごっこ遊びは災害後にも地震ごっこや津波ごっこで見られましたが、これは正常な反応です。ごっこ遊びを無理にやめさせないでください。

差別的なあそびになった場合は差別に関することを考える機会として、話題にしてみてください。



⑤子どもが不安を訴えた時

子どもの中には不安を訴える子どもがいる時は、何が不安かを十分に聞いてあげてください。

「がまんしなさい」というようなアドバイスはしないでください。

手洗いなどの感染防御に関して正しい知識を与えると同時に、ここの場は対策を十分にとっているから大丈夫だと伝えてあげてください。

⑥普段通り＝安心感

以上のことを守りながら、プログラムは普段通りに行ってください。

子どもたちにマスクを着用させる必要も、距離を保って会話する必要もありません。

子どもたちは休校などの体験をし、いつもと違う環境にありました。プログラムはいつもと同じで、安心な環境設定をこころがけてください。

プログラム後

1) 体調管理

プログラムの後、2週間以内で発熱や呼吸器症状などの症状が出た場合は、プログラム主催者に連絡をするように保護者とFTに伝えてください。

そのような事例が出た場合は、参加者全員にその旨を伝え、注意喚起を促してください。PCR検査で陽性でも陰性でも結果が分かった時点で保護者およびFTに連絡を入れるようにしてください。

2) 参加者から陽性反応が出た場合

陽性の場合には濃厚接触者として行政の管理下となりますので、情報提供などに協力してください。

プログラム会場は手で触れられるところをすべてP6の要領で消毒をしてください。

スタッフを含め、その場を利用した人には陽性反応が出た人がいることを伝え、体調管理に留意するように注意喚起してください。

濃厚接触者

必要な感染予防策をせずに手で触れること、または対面で互いに手を伸ばしたら届く距離（目安として2メートル）で一定時間以上接触があった場合に濃厚接触者と考えられます。プログラムでは手洗いは促しますがマスクの着用などはしていないため、万が一、陽性者が発生した場合は、その場にいた全員が濃厚接触者となると考えてください。



正しい手の洗い方

手洗いの前に

- ・爪は短く切っておきましょう
- ・時計や指輪は外しておきましょう



1

流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。



2

手の甲をのばすようにこすります。



3

指先・爪の間を念入りにこすります。



4

指の間を洗います。



5

親指と手のひらをねじり洗います。



6

手首も忘れずに洗います。

石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

3つの咳エチケット

電車や職場、学校など人が集まる場所でやろう



✕

何もせずに咳やくしゃみをする



✕

咳やくしゃみを手でおさえる



○

マスクを着用する
(口・鼻を覆う)



○

ティッシュ・ハンカチで
口・鼻を覆う



○

袖で口・鼻を覆う

マスクがない時

とっさの時

子どもグリーンプログラムに参加のみなさまへ

新型コロナウイルス感染症が世界的に流行しています。本プログラムでも集団感染（クラスター）予防をし、子どもたちの健康を守りながらプログラム運営をまいります。つきましては、子どもグリーンプログラムに参加のみなさまにも、ご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

1. プログラムの開催目安

プログラムの開催は開催地域において、学校の休校、イベント自粛、外出自粛が出されていないことが条件です。

開催予定であっても、これらの自粛要請が発令された場合は、急遽中止となることもありますので予めご了承下さい。

2. プログラム参加条件

感染管理上、以下をすべてクリアしていることをプログラムの参加条件とします。

参加基準

以下の全ての基準を満たすこと

- ①発熱（37.5℃）や呼吸器症状がないこと
- ②家族に発熱（37.5℃）や呼吸器症状のある人がいないこと
- ③過去 1 か月以内に海外渡航歴がないこと
- ④COVID-19 陽性者の濃厚接触者ではないこと
- ⑤外出自粛要請の出ている地域に在住していないこと

以上の基準を必ず満たした人は参加できます。

プログラム会場にいらした時に、明らかに咳がひどい方は帰ってもらう場合もあります。

3. 参加に際して

- 1) 新型コロナウイルスに対して不安を持っているお子さんがいましたら事前にお知らせください。参加される保護者の方、ファシリテーターの中でも不安な方がいましたら、ご相談ください。大人の不安は子どもに伝わりますので、一緒に不安の軽減に努めたいと思います。
- 2) マスクの着用は不要ですが、必要とを感じる方はご持参ください。
なお、マスクの入手が困難な現状と、健康な人はマスクは不要という厚労省の指導を下に、本プログラムにおいて参加者やボランティアスタッフにマスクを着用を義務づけていないという点をご理解ください。
- 3) プログラム後、2 週間以内に発熱や咳などが出た場合は、主催者に必ず連絡をください。

資料3 感染対策チェック表

1. 会場準備

- 家庭用塩素系漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム）を、濃度が0.05%（製品の濃度が6%の場合、水3Lに液を25 ml）になるように調整する。

消毒する場所

- ドアノブ
- エレベーターのボタン
- 椅子
- テーブル
- おもちゃ
- 手すり
- 水道の蛇口
- トイレのボタン
- そのほか子どもが手に触れるところ

*全部やる必要はなし。「手に触れるところ」を消毒。

- 空気の入替え（換気）
- 手指消毒の準備

2. プログラム中に換気する当番を決めておく

「検疫強化対象地域」及び「入管法に基づく入国制限対象地域」（3月21日現在）

<検疫強化対象地域>

（注：下線は、2020年3月21日午前0時（日本時間）から追加）

東アジア：中国，韓国の全域（3月9日午前0時から追加）

ヨーロッパ：シェンゲン協定加盟国（アイスランド，イタリア，エストニア，オーストリア，オランダ，ギリシャ，スイス，スウェーデン，スペイン，スロバキア，スロベニア，チェコ，デンマーク，ドイツ，ノルウェー，ハンガリー，フィンランド，フランス，ベルギー，ポーランド，ポルトガル，マルタ，ラトビア，リトアニア，リヒテンシュタイン，ルクセンブルク），アイルランド，アンドラ，英国，キプロス，クロアチア，サンマリノ，バチカン，ブルガリア，モナコ，ルーマニアの全域

中東：イランの全域

アフリカ：エジプトの全域

<入管法に基づく入国制限対象地域>

（注：下線は、2020年3月19日午前0時（日本時間）から追加）

<中国>湖北省，浙江省

<韓国>大邱広域市，慶尚北道（清道郡，慶山市，安東市，永川市，漆谷郡，義城郡，星州郡，軍威郡）

<イラン・イスラム>ギーラーン州，コム州，テヘラン州，アルボルズ州，イスファハン州，ガズヴィーン州，ゴレスタン州，セムナーン州，マーザンダラン州，マルキャズィ州，ロレスタン州

<イタリア>ヴェネト州，エミリア＝ロマーニャ州，ピエモンテ州，マルケ州，ロンバルディア州，ヴァッレ・ダオスタ州，トレンティーノ＝アルト・アディジェ州，フリウリ＝ヴェネツィア・ジュリア州，リグーリア州

<サンマリノ>全ての地域

<スイス>ティチーノ州，バーゼル＝シュタット州

<スペイン>ナバラ州，バスク州，マドリード州，ラ・リオハ州

<アイスランド>全ての地域

厚労省のHPから最新情報をチェックしておくこと

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/covid19_da_kanrenkigyuu_00001.html#Q1-1

参考HP

WHO

<https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019>

日本 WHO 協会 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) WHO 公式情報特設ページ

https://extranet.who.int/kobe_centre/ja/news/COVID19_specialpage

子どもの保護と安全な学校運営のための ガイダンス

http://kokoronokamae.umin.jp/archives/safe-school-operations/?fbclid=IwAR3Qpy6oDAeTR_6-b5yy1JzXXiF55TCCmsClha8urfiOXm5glxW8jHenvo0

http://kokoronokamae.umin.jp/archives/safe-school-operations/?fbclid=IwAR3Qpy6oDAeTR_6-b5yy1JzXXiF55TCCmsClha8urfiOXm5glxW8jHenvo0

文部科学省 新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する対応について

https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/index.html